

令和5年度第2回 「しがweb アンケートプラス調査」 (県外向け調査)の結果について

1 調査の目的

他の都道府県民を対象として、滋賀県に対するイメージ・意識・認知度等をインターネットを活用し適時迅速に調査し、速やかに県の施策に活用するための基礎資料とする。

2 調査の概要

- (1) 調査対象 県外 京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県、福井県、岐阜県在住の満18歳以上の個人
- (2) 標本数 1,000人
- (3) 調査方法 インターネットを利用し、パソコン、スマホ等により回答するweb調査
- (4) 調査機関 令和5年8月29日(火)～31日(木)
- (5) 調査会社 株式会社 クロス・マーケティング

3 調査項目

滋賀県立高専設置に関する意識調査

4 主な調査結果

問1 あなたの職業・職種は何ですか。(回答は1つ)

1位:会社員	26.8%
2位:無職	18.4%
3位:主婦(夫)	16.3%
4位:サービス業	11.0%
5位:医療・福祉業	5.9%
6位:その他()	5.0%
7位:製造業(その他)	4.2%
8位:学生	2.9%
9位:教員	2.7%
10位:IT関連業	2.3%
11位:公務員	2.0%
12位:土木建設業	0.9%
12位:製造業(機械・電子部品)	0.9%
14位:士業(弁護士、司法書士、税理士等)	0.4%
15位:製造業(金属・鉄鋼)	0.3%

・回答を寄せた人で、一番多かったのは「会社員」の26.8%、次いで「無職」の18.4%、「主婦(夫)」の16.3%、「サービス業」の11.0%と続く。

問2 あなたは、「高専」を知っていますか。(回答は1つ)

※「高専」(高等専門学校)は、未来の技術者(エンジニア)を養成する学校であり、中学校を卒業後

の5年間で、実験・実習を重視した実践的で専門的な一貫教育が行われます。(学校によって異なりますが、機械系、電子電機系、情報系、建築系などの専門分野を学ぶことができます。)

1位:知っている	47.2%
2位:名前だけ知っている	38.9%
3位:知らない	13.9%

・「知っている」と回答した人が最も多く、半数近くの47.2%となっている。性別内訳をみると、男性で53.2%と「知っている」と回答した人が半数を超えた。

・次いで「名前だけ知っている」と回答した人が全体の4割近くの38.9%となっている。

問3 問2で「1 知っている」または「2 名前だけ知っている」を選んだ方にお尋ねします。
高専を知ったきっかけは何ですか。(回答はいくつでも)

1位:家族や友人(「高専の卒業生(家族や友人)から」の場合を除く)から	33.4%
2位:テレビから	26.6%
3位:高専の卒業生(家族や友人)から	23.3%
4位:教員から	15.7%
5位:新聞記事から	13.2%
6位:高専の卒業生(職場の人)から	8.5%
7位:ネットニュースから	7.2%
8位:その他()	6.9%
9位:SNS(一般の方の発信)から	3.4%

・最も多かったのは「(高専の卒業生ではない)家族や友人から」で33.4%、全体の3分の1を占めている。

・次いで「テレビから」が26.6%、「高専の卒業生(家族や友人)から」が23.3%と続く。

・1位と3位を合わせると、「家族や友人から」が56.7%と半数を超える。

問4 あなたは、滋賀県に高専が開設されることを知っていますか。(回答は1つ)
※令和10年春、野洲市に開設予定です。

1位:知らない	96.4%
2位:知っている	3.6%

・「知らない」と答えた人が96.4%と圧倒的に多くなっている。

問5 問4で「1 知っている」を選んだ方にお尋ねします。

滋賀県に高専が開設されることを知ったきっかけは何ですか。(回答はいくつでも)

1位:テレビのニュースから	36.1%
2位:滋賀県のホームページから	30.6%
3位:家族や友人から	27.8%
4位:ネットニュースから	22.2%
5位:新聞記事から	19.4%
6位:職場の人から	16.7%
7位:SNS(一般の方の発信)から	8.3%
8位:その他()	0.0%

・最も多かったのは「テレビのニュースから」で36.1%、次いで「滋賀県のホームページから」が30.6%となっている。

問6 中学校卒業時の進路選択の際、選択肢の一つとして高専を提案されることはありましたか？
(自身で調べた場合も含む)(回答は1つ)

- | | |
|---------|-------|
| 1位:なかった | 90.7% |
| 2位:あった | 9.3% |

・「なかった」と答えた人が全体の9割を超え 90.7%となっている。性別内訳をみると、男性が 85.4%、女性が 96.0%と 10 ポイント以上の差がある。

問7 問6で「1.あった」を選んだ方にお尋ねします。誰から進路として提案されましたか。(回答はいくつでも)

- | | |
|-----------|-------|
| 1位:中学校の教員 | 43.0% |
| 2位:自分で調べた | 35.5% |
| 3位:家族、親戚 | 28.0% |
| 4位:友人 | 6.5% |
| 5位:塾の講師 | 3.2% |
| 6位:その他() | 0.0% |

・「中学校の教員」と答えた人が最も多く 43.0%、次いで「自分で調べた」35.5%、「家族、親戚」28.0%と続く。

問8 文系・理系の選択を意識し始めたのはいつですか。(回答は1つだけ)

- | | |
|----------------------|-------|
| 1位:文系・理系を選択することがなかった | 35.0% |
| 2位:高校1年生 | 20.9% |
| 3位:中学校3年生 | 13.9% |
| 4位:高校2年生 | 13.1% |
| 5位:高校3年生 | 7.1% |
| 6位:中学校2年生 | 4.0% |
| 7位:中学校1年生 | 2.8% |
| 8位:小学校高学年 | 2.3% |
| 9位:小学校低学年 | 0.8% |
| 10位:その他() | 0.1% |

・「文系・理系を選択することがなかった」と答えた人が 35.0%と最も多かった。

・選択することがあった人の中で一番多かったのが「高校1年生」で 20.9%、次いで「中学 3 年生」が 13.9%、「高校 2 年生」が 13.1%と続く。

問9 文系・理系の選択を意識するきっかけは何でしたか。(回答はいくつでも)

- | | |
|----------------------|-------|
| 1位:文系・理系を選択することがなかった | 35.0% |
| 2位:得意な科目があった | 28.2% |
| 3位:苦手な科目があった | 25.7% |
| 4位:興味のある科目・分野があった | 17.7% |
| 5位:進路選択で考える必要があった | 11.7% |
| 6位:将来なりたい職業ができた | 8.6% |
| 7位:親から勧められた | 2.3% |
| 8位:その他() | 0.5% |

・「文系・理系を選択することがなかった」と答えた人が 35.0%と最も多かった。

・選択することがあった人の中で一番多かったのが「得意な科目があった」で 28.2%、次いで「苦

手な科目があった」が 25.7%、「興味のある科目・分野があった」が 17.7%と続く。

問10 教育関係の情報を得る際、どこから情報を得ますか。(回答はいくつでも)

1位:学校	72.0%
2位:インターネットでの検索(5~7を除く)	22.8%
3位:塾	17.8%
4位:オープンキャンパスや学校説明会	13.6%
5位:教育関係の情報誌	8.2%
6位:都道府県のホームページ	7.1%
6位:高校等教育機関のホームページ	7.1%
8位:SNS	5.8%
9位:教育委員会等が発行する広報誌	3.1%
10位:その他()	3.0%

・「学校」と答えた人が 72.0%と圧倒的に多かった。

・次いで、「インターネットでの検索(都道府県のホームページ、高校等教育機関のホームページ、SNSを除く)」が 22.8%、「塾」が 17.8%と続く。

問 11 中学校卒業時の進路選択において、重視すべきことは何だと思えますか。(自由記述)

○1,000 人のうち927 人(92.7%)の方にご回答いただき、その主なものは次のとおりである。

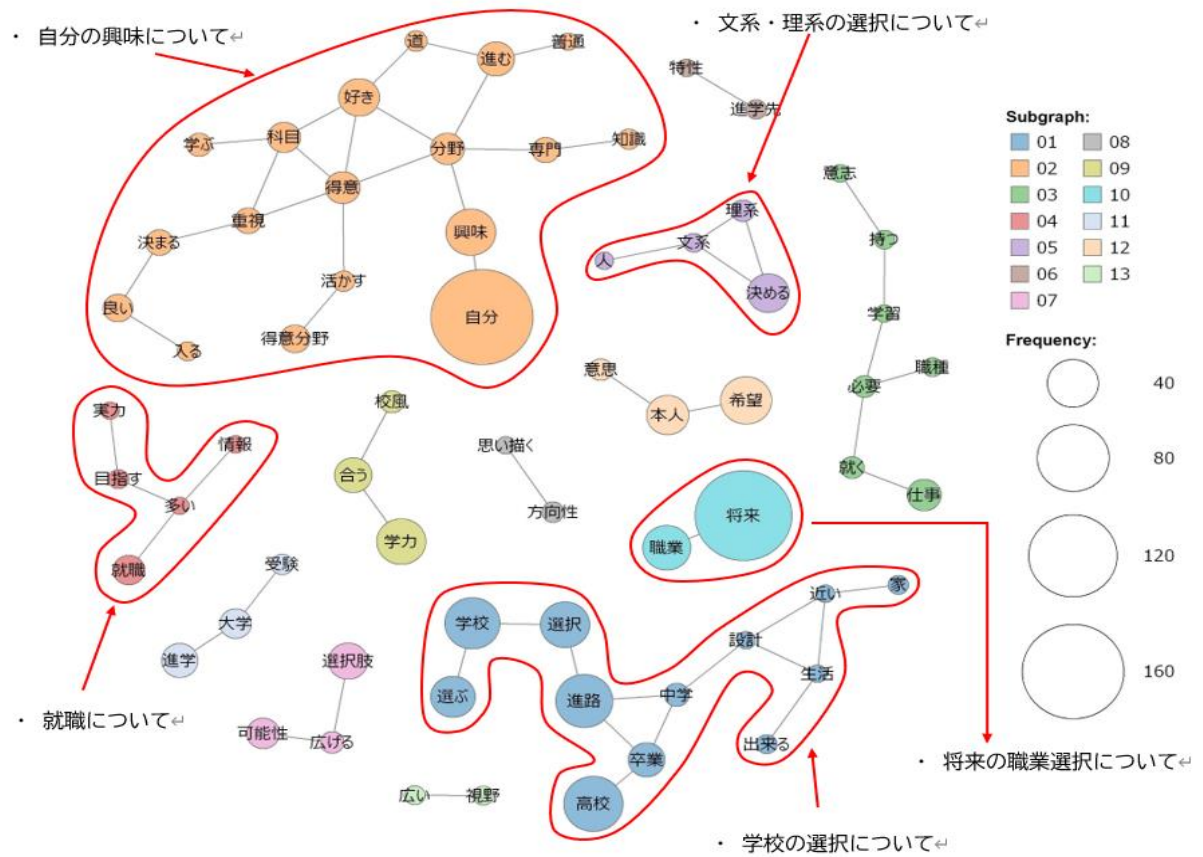
(おひとりで複数回答の場合はすべての項目にカウント)

- ・将来やりたいこと、方向性、目標、夢、興味、ビジョン、希望等 227 人
- ・本人の適性、特性、学力、レベル、得意分野、実力、能力、可能性等 119 人
- ・自分で決めること(本人の意思、考え、意欲、やる気、努力等) 59 人
- ・進路先の方針、校風、特性、偏差値、進学率、就職率、カリキュラム等 45 人
- ・将来の明確なビジョンを持つ、自分を知る、なりたい自分を描く等 43 人
- ・就職先、世の中の職業、職業体験、仕事につながるかどうか等 38 人
- ・選択肢を増やせること、幅広い視野、進路を柔軟に選択できる等 29 人
- ・通いやすいところ、距離、近いこと等 21 人

○他に、「専門的知識や資格等」、「家族・友達・先生等の意見」、「高校を早く決める」、「安心、安全、確実等」「可能性を広げる・開く・残す等」といった回答もいただいた。

○なお、「なし、特になし」、「分からない、知らない」「考えたことがない」等と回答された方も 213 人と多く、全体の 22.4%となっている。

○自由記述でいただいたご意見の要約として共起ネットワークグラフを作成した。共起ネットワークグラフは、一つの文章内で同時に出現(共起)するキーワード間に何らかの関連性があると仮定して集計し、出現頻度が上位のキーワード(点)と関連性(線)から成るネットワークグラフとして可視化したものである。



※語と語が結ばれている線は、共起性や関連性を表している。

※円の大きさは頻出キーワードの出現頻度を表している。